



沖縄子どもの未来県民会議 地域円卓会議

これからの子どもの居場所はどうあるべき？

地域づくりの視点から考える

実施報告書

日 時： 2018年10月2日（火）18:30-21:00
場 所： 沖縄大学アネックス共創館（沖縄県那覇市国場 405）
主 催： 沖縄県、沖縄子どもの未来県民会議
協 力： 公益財団法人みらいファンド沖縄、NPO 法人まちなか研究所わくわく

報告書作成
NPO 法人まちなか研究所わくわく
公益財団法人みらいファンド沖縄

ACTIVITY REPORT

【報告】 沖縄子どもの未来県民会議 地域円卓会議



- 日 時：2018年10月2日（火）18:30-21:00
- 場 所：沖縄大学アネックス共創館
- 着席者数：9名（論点提供者、司会、記録者含む）
- 来場者数：60名（教育関係・行政・NPO・大学・企業）
- 主 催：沖縄県、沖縄子どもの未来県民会議
- 協 力：公益財団法人みらいファンド沖縄
NPO 法人まちなか研究所わくわく
- お問合せ：NPO 法人まちなか研究所わくわく

論点提供 島村 聡 氏（沖縄大学 人文学部 福祉文化学科 准教授）

これからの子どもの居場所はどうあるべき？ 地域づくりの視点から考える

沖縄県で実施した平成 27 年度「子どもの貧困実態調査」において、29.9%の子どもが貧困状態に置かれていることが明らかとなりました。全国に比べて特に深刻な沖縄の子供の貧困の状態に緊急に対応するため、国・県・市町村が連携し、平成 28 年度から「沖縄子供の貧困緊急対策事業」による子どもの居場所の設置が進んでおり、平成 30 年 6 月時点で 26 市町村 126 箇所を設置されています。これら居場所の中には、不登校生徒などに特化した専門的な支援を行う居場所のほか、児童館や自治会などの地域に根ざした居場所など、様々な居場所が存在し、家庭や学校とは異なる子どもたちの受け皿となっています。

一方で、県内小学校区の 7 割以上に居場所が 1 箇所も設置されておらず、歩いて行けるような身近な居場所が全ての子どもたちに提供できていない状況となっています。今回の円卓会議では、こうしたこれまでの成果や課題を踏まえ、地域の実情に応じた身近な居場所づくりを進めるために必要なものは何か、これからの子どもの居場所がどうあるべきかを、地域づくりの視点から県民のみなさんや関係者、専門家の方々と一緒に考えていきたいと思ひます。

センターメンバー



島村 聡
沖縄大学
人文学部
福祉文化学科
准教授



喜舎場 健太
沖縄県子ども
未来政策課
課長



城間 えり子
那覇市社会福祉協
議会 子どもと地
域をつなぐサポ
ートセンター系担
当コーディネーター



細田 光雄
一般社団法人
ビクトリー
チャーチ
代表理事



與儀 長次
松尾二丁目
自治会
会長



山城 康代
みどり町児童
センター館長



池田 哲平
琉球新報
社会部 記者

➤ 円卓会議に参加いただいた皆さんから

事実の提供

- 沖縄の子どもを取り巻く現状
 - ✓ 子どもの貧困率 29.9% (H26年)。全国 13.9% (H28年)。沖縄は全国の約 2 倍
 - ✓ 子どもがいる大人が 1 人の世帯 (ひとり親等) の貧困率 58.9% (H26年)、全国 50.8% (H28年)
 - ✓ 小学校の不登校児童数 (児童千人当たり) 6.9 人、全国 4.8 人 (沖縄全国共に H28 年度)
 - ✓ 10 代の出産割合 2.6%、全国 1.3% (沖縄全国共に H26 年度) 全国の 2 倍
 - ✓ 児童養護施設等の入所施設に措置した児童の保護者の低所得世帯の割合 90.1% (H26 年度)
- 沖縄県の子どもの数は 30 万人。家庭から離れて児童養護施設等で暮らす子ども約 500 人。生活保護を受けている家庭で暮らす子ども 4,500 人。経済的に厳しい子ども達は 9 万人。この 9 万人が子どもの貧困対策事業の対象
- 2 年前から緊急対策事業を中心に子供の居場所が立ちあがっている。約 130 ヶ所
- 沖縄の子どもの貧困対策に関する主な事業
 - ✓ 沖縄子供の貧困緊急対策事業。子供の居場所は、26 市町村、126 箇所 (H30 年 6 月現在) 設置。県内小学校は 300 校あるが、小学校単位で 3 割程度しか捕捉していない。7 割が未整備
 - ✓ 沖縄県子どもの貧困対策推進基金 (30 億円) で就学援助。ランドセルを購入できない家庭に支援をする等の支援。子育て総合支援モデル事業、無料塾の取組み。県内どこの市町村にいても学習支援を受けられる体制になっている
- 子どもと地域をつなぐサポートセンター系
 - ✓ 那覇市からの委託事業。H28 年 10 月、那覇市社会福祉協議会 (以後、那覇市社協) が受託
 - ✓ 那覇市からの助成金を受け子どもの居場所を実施している 15 団体にヒアリングを実施。食中毒や保険の心配、ボランティアがいない、気になる子への対応など各団体の課題がみえた
 - ✓ 団体が抱えている課題に対して、情報収集し提供等を行っている
 - ✓ 団体に対して、訪問やメールでの情報提供、対外的な関係づくりを行っている。ネットワークづくりとして、子ども達に関わる方 (自治会・小学校長・子ども寄添支援員・児童子ども自立支援員・児童館・公民館・民生委員 (児童部会) 等) と小禄、真和志、首里、那覇で連絡会を開催。居場所の紹介を行っている
 - ✓ 企業との連携。物的寄贈を受け団体へ提供している。資源のコーディネートを行っている
- 一般社団法人ビクトリーチャーチが実施する子どもの居場所について
 - ✓ 子ども達の日常として、学習支援 (学校の宿題や宿題を忘れた子には学年別に準備した学習プリントを行う)、遊び (ゲームや卓球等) を自由にさせている
 - ✓ 毎日お菓子を提供。平日は夕食のみ、休日は昼食と夕食を提供。夏休みの半分は一日 3 食提供していた。朝 8 時に訪ねて来る子どもがいたので、夏休み限定で朝食も提供していた
 - ✓ 利用時間は朝 10 時~18 時半。火曜日以外は毎日実施
 - ✓ 利用している子どもは 30 名程。土曜日は 50 名超える
 - ✓ 体制: スタッフ 5 名。大学ボランティア 4 名。不定期に入るボランティアもいる
 - ✓ 那覇市から補助金年間 120 万
 - ✓ レストランから週 5 日食事の提供協力や弁当屋からも食事提供協力がある。近所の方々から家庭菜園の野菜を頂くなどたくさんの方が支援してくれている。月々 1 万円寄付する方、県内外の企業からの寄付もある
 - ✓ 補助金や寄付、援助も含め約年間 600 万ほど経費かかる
- 松尾二丁目自治会が実施する子どもの居場所について
 - ✓ 神原小、壺屋小、与儀小、城岳小、開南小学校の子どもたちが利用している。男の子の割合が高い
 - ✓ 運営体制は、民生委員の手伝いもあるが、7 割は会長の一人体制で行っている。ボランティアは、那覇市社協を通して来てもらっている
 - ✓ 当初は月に 2 回、第一、第四土曜日に子ども達に食事を提供していたが、現在は毎日食事を提供している
 - ✓ 体が不自由でサロンに来られない高齢者等に居場所にくる子ども達が食事を配達している。子ども達と高齢者とのコミュニケーションが生まれ、子ども達も喜んでいる。地域づくりに子ども達も関わっている
- みどり町児童センターは、公設民営。児童館のなかで子どもの貧困対策事業の予算で子ども食堂の実施や中学生の居場所づくりを行っている。児童館という枠の中で、課題に合わせて様々な事業を行っている

評価の提供

- 補助金は必ずなくなるため自立してやっていくために予算をどのように確保するか考えないといけない
- 課題が深刻な子どもが通える夜間の居場所が市町村にひとつあるなど、居場所の役割を再度考える時期にきているのでは

視点の提供

- 個別支援から政策までの流れ（島村氏より）

マイクロ （個別）	⇔	メゾ （効果を高める）	⇔	マクロ （政策）
対人援助		組織的対応		基盤整備
<ul style="list-style-type: none"> ・寄り添い支援 ・居場所活動 ・学校ソーシャルワーカー ・無料塾 		<ul style="list-style-type: none"> ・要対協 ・その他 		<ul style="list-style-type: none"> ・保育所整備 ・学費無償化 ・医療費助成 ・住居支援 ・働き方改革

- ✓ ミクロは対人援助。地域で困っている子どもに気づき食事を提供することや学校ソーシャルワーカー等問題を発見した人がすぐ動ける支援など
- ✓ マクロは保育所の整備、学費減額等の政策
- ✓ メゾは、ミクロ（対人援助）からマクロ（政策）につなぐために、話し合いや対策を会議する場
- ✓ マクロ（政策）とミクロ（個別支援）がうまくつながっていないと総合的によい施策にならない

- 子どもの居場所 119 ヶ所（H28 年時点）にアンケートを実施。子どもの居場所を 4 タイプに分類（島村氏より）

1	一次支援のみ実施
2	一次支援を実施しながら二次支援は時折実施
3	一次支援および二次支援を含めて総合的に実施
4	二次支援のみ実施

※子ども食堂、学習支援、就労支援のプログラム等を行うことを一時支援。問題を抱えた子どもに個別に専門的支援を行うことを二次支援とする

- ✓ 一時支援のみ行っているタイプ 1 の居場所が一番多い。タイプ 2 は、一次支援を実施しながら二次支援は時折やらざるを得ない状況。専門性が必要だがやっしまっている。タイプ 3 は、一次支援および二次支援を総合的に実施。タイプ 4 は、二次支援に特化して行い、お金をかけて専門的支援を行っている

- H28 年に子どもの居場所の団体を対象に聞き取り調査を実施。子どもの居場所を以下類型化（島村氏より）

		支援型（個別支援を重視）			
地域型（居場所 が主導）補助	B1		A1	機関型（行政が 企画）委託	
	B2		A2		
活動型（プログラムを重視）					

- ✓ A1 は、行政委託を受けて個別支援を実施。委託料も高い。B2 は、地域で補助等を受けて実施。B1 は、地域で実施しているが夜遅くまで子ども預かるなど個別支援をしないとイケない。わずかな補助金で実施。A2 は、活動型をやりたいが行政委託を受けており個別支援を要求されている。行政の仕様がきびしい。学習支援やりたいが個別支援をやらざるを得ない

- 子どもの居場所の課題

- ✓ 子どもの居場所の開催頻度が月に 1~2 回では子どもが居場所として認識しづらい。一方で、開催できない理由として、職員、ボランティアの確保が困難、費用の問題がある
- ✓ 様々な子どもが来るため発達障害の勉強会の実施や専門支援ができる機関や他の居場所とつながるなど、居場所運営の職員の対応のレベルアップが必要
- ✓ 補助金は必ずなくなるため運営するためには自走するしかない、経営力をつける。スポンサーが重要
- 二次支援が必要。特に学習の場で発達障害の子どもたち専門の塾は県内に少なく、中高生対象はほぼない現状
- 図書館も巻き込んでどうか。子どもが何かに困ったときには選択肢のひとつとして図書館や本に触れさせることも必要
- 予算がなくなったときには、まわりの方に協力をお願いしながら運営して行くことが必要。ただ、継続性を考えると賃金が発生し人材を確保する必要もあるのでは
- 現在の子どもの支援の状況は、最初の一步の段階。地域で支える取組みを行っている。第二段階は、いかに継続するか。最終段階は、地域で障がい者、高齢者、子どもも一緒になった居場所で過ごすのが最終形ではないか
- 地域の自治会に役割を持たしていくのはどうか。地域の中で子どもたちを見守る、気になる子を共有するしくみをつくれるのではと感じている
- 子どもの居場所のどの類型がいくつ足りないのかは調査が必要
- 居場所活動を行っている方の経営力を上げていくためには情報共有すること、地域資源とつなげていくつなぎ手が重要
- 継続性や場所の確保はすでにマクロ（政策的）領域に入っている。それを地域に背負わすのは難しい。行政の責任としてやらないとイケない

➤ 今後のアプローチの方向性（提案）

- 子どもの居場所同士が情報交換し、その運営ノウハウを共有することは重要、社協や行政でこの機能を担保したい
- 子どもの居場所の運営は、現場・中間支援・行政・その他関係者でその地域の特性を共有しながら、運営資金と経営のありかたを議論すべき
- 地域社会において、子どもの居場所は、高齢者や障がい者との共生の拠点となりうる。居場所が地域における様々な主体に恩恵を与えることを啓発することも重要
- 積極的な行政の関与の下、あらゆる境遇の子どもにも対応できるよう居場所を類型化するとともに、地域別にニーズ調査を行うべき。子どもの居場所の継続性を確保することを、行政の責任により政策的に行う時期に来ている

■参加者によるサブセッション

「これからの子どもの居場所はどうあるべき？

地域づくりの視点から考える」(原文のまま)

- ① 青年会の後継問題・資金繰り ハタガシラ保存会（地域のつながりがうすい）
デイサービスが場所を提供できる
若年層・労働世代の地域サポートが少ない
きっかけとボランティアに参加するための
- ② 学校がもっと深く関わっていく（pick up）
子どもは地域で育てる（地域は変わらない）
- ③ 夜の居場所は小～大人までみんな必要としている
発達障害の子どもを集中的に支援する塾
- ④ 小学校区の通える範囲でもっと居場所を増やしては
子どもが居場所を運営してみても。子ども視点で解決策が見えてくるかも知れない
こどもの居場所の先に（突破）として向こう側の家族支援などつながらないか
- ⑤ スマホで情報をキャッチ出来る場所
不登校の子どもが安心してこられる場所
（安心・安全）→気持ちが出せる 自主参加
地域づくり
貧困とそうでない地域の差があるように感じる
不良の先輩に引き連れられていってしまう。
- ⑥ 貧困とは？
経済的/精神的（この支援はどうする？）貧困があるのでは？
なぜ学校の話が出てこない？
- いかに学校に登壇者のような人を巻き込んでいくかという視点が大事
ガンガラーに招待
子どもオーケストラをもっと
- ⑦ 優先順位（学校のバリアをなくして！）
子どものための活動を
- ⑧ 図書館も1つの居場所
どんな大人と出会うか？これが大切。
居場所の中で自己肯定感
子ども達が幸せと感じる場所
- ⑨ 工業デザイン等、幅広い知識も共有できないか
誰でも参加（支援）でき、その後スキルアップできるシステム
- ⑩ ユニバーサルサービス&個々の支援
落ちそうな人を落とさないように
落ちた人をどう救うか
- ⑪ 各分野での行政との橋渡し
民間と行政との強い連携
地域で子どもを育てる取組み
- ⑫ 子ども会の在り方（存続課題）
- ⑬ 子どものプライドを育む社会
- ⑭ 大人と子どもが支え合う関係
- ⑮ 子ども版地域通貨
- ⑯ はちみつで地域の大人と子どもと学校が楽しく繋がる

沖縄子どもの未来県民会議地域円卓会議 参加者アンケート集計

◆概要

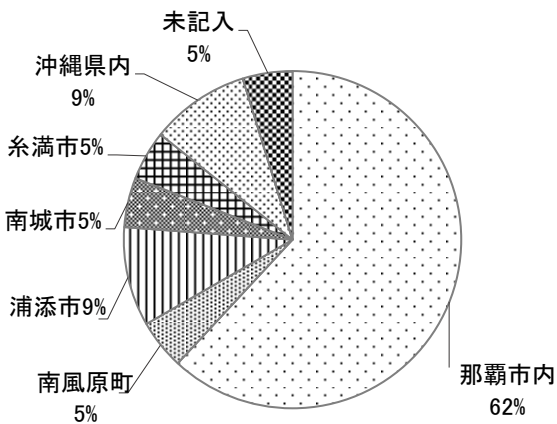
- ・日時：2018年10月2日（火）18:30-21:00
- ・場所：沖縄大学アネックス共創館
- ・着席者：9名（論点提供者、司会、記録者含む）
- ・参加者：60名（アンケート回収26名、回収率43%）

4. 満足度

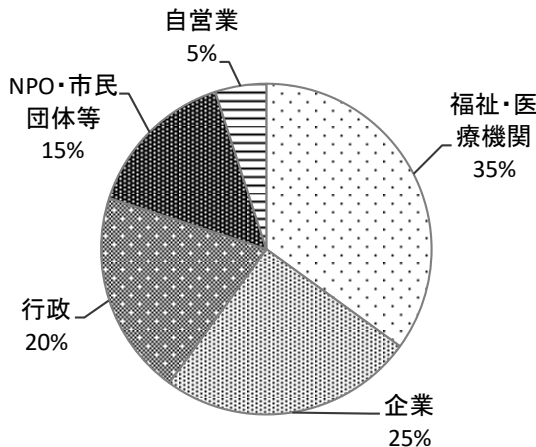
平均：4.5（5点中）

5.満足	4.概ね満足	3.ふつう	2.あまり満足していない	1.不満足
15名	10名	1名	0名	0名

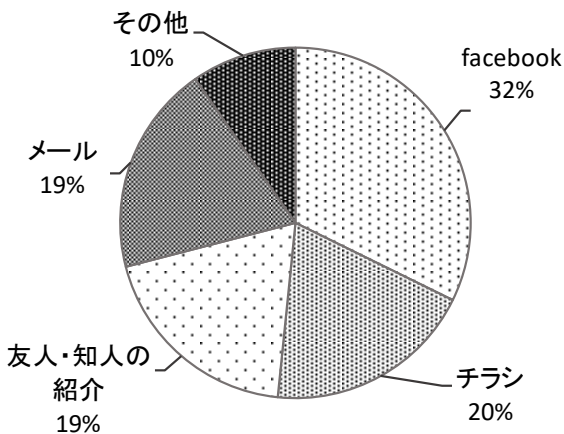
1. どちらから？



2. 所属



3. 円卓会議はどのように知ったか



5. 満足度の理由

(5. 満足)

- ・ 支援する側、支援される側、研究者からの多様な視点でのディスカッション、話題提供で、「子どもの貧困、居場所」に関する現状を知れた
- ・ 多くの気づきが得られた。いかに地域の事を知らないか
- ・ 職種を超えた議論が聞け、またグループでも話ができ、とても充実した時間を過ごすことができました。もっと話を聞きたかったですし、もっと色々な人と話したかったです
- ・ 子ども達の支援の現状や課題、これからの方向性など深い話がきけました
- ・ サブセッションで大変いい話ことができました
- ・ 現状の厳しいお話を聞いて、胸が苦しくなりました。課題を共有して、よい、改善策を考えたいと思います
- ・ 司会の方が絶妙に上手でした。聴きたいポイントをとらえてお話をまわしてくれたので、長すぎず、短すぎず、とても良かったです
- ・ 今後児童館などつくりたいと思っていたので地域にとけこむ居場所づくりは勉強になった
- ・ 居場所（こども食堂）を運営している方から現状がきけたこと（松尾2丁目自治会の話から、こども食堂を通し、地域の子どもの個別な課題を知ることができる）こどもの貧困とよく聞いているが、状況をかいま知ることができた
- ・ 子ども居場所の課題や取組みに求められ

ている方向性について様々な意見を聞くことができた。居場所の実態もよくわかった

- ・ 様々な現場のお話を聞くことができました
- (4. 概ね満足)
- ・ これから先、どの機関へ子ども達をつなげていけばいいかが見えた。私達の活動で、何が出来るのか見えた
 - ・ 現場の声が聞けたこと
 - ・ 参加者が真剣に話の中に入っていた
 - ・ 3人グループの意見をもっと多くききたかった
 - ・ 2回目の参加だが、セッションとまとめ、参加者の話し合いもできてよい。まとめが秀逸
 - ・ 色んな取組みされている方々に感動。すごいなと思いました。小学校、児童の支援にとどまらず、中学生にも支援をしたいとのお話に共感します
 - ・ 子供の貧困状況は地域の支援で改善しつつあるが、解消にはなっていない。継続していくためにはどうすれば良いか
 - ・ 円卓会議は地域でも開催してほしいです。「何かしたい」と思う人はたくさんいて、こういう話をたくさんまいて地域の力が復活してほしいといつも思い考えます
 - ・ 角度によって話し手の顔が見えないので、表情がわかるモニターがあるとより話が聞けそう
 - ・ パネリストの方々の話には大変満足。現場の話も聞けたので、それ以外に参加者とのコミュニケーションをもっと十分にしたいかった。
 - ・ 子どもの居場所に関する基本的な取組み事例が確認できた

(3. 普通)

- ・ 開始時間が早くて間に合わなかったため、内容の理解に時間がかかった

6. 印象に残ったこと

- ・ 子ども通貨、子どもが運営する子ども食堂が現れると面白いかもと感じた
- ・ 残った子ども食堂の料理とデリバリー

図書館の利用の仕方

- ・ 『地域に根付いた活動をするのが大切』、『大人と接する機会のすくない子供は"先生"と呼んでくる』→地域や人とのつながりがほとんどないんだなあと思いました
- ・ 自治会毎に地域支え合いの仕組みをつくり、そこに専門コーディネーターを派遣し、地域で問題解決をしていく方法を推奨してはどうか
- ・ 図書館をぜひ使わせてみてほしい、(使い方を知らせてほしい) というアイデア
- ・ ミクロとマクロの間が大事であり、それをつなげるコーディネーターの役割が大事なことを知りました
- ・ グループ討議で発表のあった「地域通貨、大人との交流で子どもの役割から自尊心を育てる」「図書館を活用する」
- ・ 地域づくり⇒自走力、経営力、スタッフのスキルUPなどなど、課題はどの地域も一樣にあるのだなと思いました。子どもの居場所なくして、地域力の向上にはならないですね。
- ・ 色々とアイデアとヒントを得ることができました
- ・ 9つの自主運営をしている子どもの居場所がある
- ・ デリバリー 子供→高齢者へ
- ・ 安全で便利な「スペース」の確保に(低コストで)立地デザイン?で貢献できたらと思います
- ・ ミクロ、マクロ。子どもが自尊心を持てる居場所
- ・ 学校の活用(理想の場所は学校になるべきだと思います。)
- ・ ペイさせること=活動の安定だとは思えない…。難しいですね
- ・ 夜の居場所、老人と子供のつながり強化

(写真) 会場の様子



2018.10.2 (火)
18:30~21:00
@沖縄大学
3ネットワーク(共会)会

沖縄子どもの未来県民会議 地域円卓会議

地域の困りごと(社会課題)の共有
共有共有共有

これからの
子どもの居場所は
どうあるべき？
地域づくりの視点
から考える

島村

地域目標の
おぼろげな
子どもたちの
未来への不安
共有共有共有

スゴい！
なれて
ない！
と
思
う

①

②

ミクロ メゾ マクロ

対人援助 組織的対応 基盤整備

対人援助: よりよい居場所の確保、学校への無料翌日給食...
組織的対応: 学対協、地域ぐるみ、無料翌日給食...
基盤整備: 保育所、学費、医療費、住居支援、働き方、制度

専門支援: 学校(校長、教員、学習支援、就労支援)、子ども食堂、学習支援、就労支援

支援型: B1, A1, B2, A2

活動型: プロゲム支援

②

居場所の課題

- 開催を上げて上げる
スタッフの確保、費用
- 対応力を上げる
研修、ネットワーク、ノウハウ伝承、他の居場所、専門隊
- 自走する
運営(経営)力、場所探し
6年後の備え(金) ストックアップ

喜舎場

沖縄 全国

子どもの貧困率 29.9
ひとりおせ 58.9
不登校児童数
小 中 高

10代の出産割合

500人 児童養護施設
4500人 生活保護

26市町村 126カ所 支援員29市町村114人

③

城間

子ども地域をつなぐサポートセンター系

那覇市→市社協(2018.11.11) 497

実態ハズク ヒソリング 16の居場所(15)

共通の課題みえた

保護 食中毒 ボランティア
お全

連絡会等で情報提供

- 地域・支援員・公衆施設等でのネットワークづくり
- おたがいの理解促進(相互フォロー) 地域づくり

Facebook 情報発信
バナナの提供等

資源・物品のシェア

開催を上げて上げる
毎日〜月1
やる内容も変化してる
悩みもそれぞれ違う
モノをシェアに届ける(中)

④

細田

(一社)ピコ-チ-チ代表

毎日 → 火休みに
5650 (お祝い)

宿題(学習支援) わずかの子には学習サポートをします

お遊び(ゲーム、卓球、おかし、等)

夕食(費用は朝昼夕食)

平日 30~50名
土日 60名
19:15(広さ)
10:00~18:30
スタッフ5人 + ボランティア大宮コン 4名
最大8小学校から 直地小

⑤

制作補助 120万(市)
レストラン つくってくれる
弁当屋 食事のサポート
近所の方から(子ども)もきてくれる
月々1万円くらい
年間600万円くらい
自走はなんとかできるので、
県外から
リソースを知る → 支援につながる
異文化交流
全国子ども食堂
ネットワーク入り
情報発信
毎朝小学校 地域へ深くかかわる

興儀

松尾二丁目自治会 会長
自治会 副会長
民生委員
3年前、助成金かけ(1400)
神原小学校
先生以外の大人と接点ない(子ども)

⑥

子どもの特性も知った
対応のしかたわからない
与社協へ
つながることができるようになった
ゲームでお客が来る
毎日やるきっかけに
市場で自営業

⑦

小さい子が小6に
来年から、中学もやらなくて
こんな子たちがいるのはまったく
知らなかった
くる親とこなし親いる
その中と思いたことが
近くなりました
ボランティアはしなくて
いる人なっている
事、所、小さい
本人がにげられる場がない
人になることでいい

⑧

続けていく
ためには?

子どもの貧困対策事業

地域の方
1人1居 1人1居
1人1居

児童館
(場)2020
小学校区1館
管理理想
浦島は小学校
小中高を
トータルでみえる

子育てサークル
ボランティア
不登校から
守りつ

9つの居場所(仮称)
(経験/CSU)
連携会(経験/CSU)MAP
地域の子もたす
全体のおお顔
がわがわが

コミュニケーション
と生かす
高齢者
おまわり
サロン
子どもたちが
食事とつながり
するよう

水1段階
きびしい状況から
新たなとりかた
地域で支える

水2段階
継続
地域包括(おとしより
子ども)
いんばワエーション

水3段階
地域で
子どもおとしより
障がい者いんば

自治会
の

優先順位 (学校のバリアを なくせ!)

子どものための活動を
24-25に展開する。

- ・図書館も一つの居場所
- ・とくは大人と出会うか?
これ大切。(きつ)
- ・居場所の中で、自己決定
- ・こども達を幸せにする

- 工業デザイン等、幅広い知識を共有できる
- 誰でも参加(支援)でき、その後
スキルアップできるシステム。

子どものプライド を育む社会

大人と子どもが
支え合う関係

子ども版 地域通貨

14歳以上で
地域の大人と
子どもと学校
が楽しく繋がる

- ・ユニバーサルサービス
と
他への支援

・落ちる人も落ちない人が!
落ちた人 どのようにする?

- ・各分野での行政
との橋渡し
- ・民間と行政の強連携
- 地域で子供を育てる取組

子ども会 のあり方 (存続課題)

<課題や感想>

- ① 青年会の後進問題・資金集メ
ハコに保存会 (地域のつながり)
- ② デイサービスが居場所を
提供して
- ③ 若年層・労働世代の
地域活動がウケない
きっかけとボランティアに
参加するためのサポート
が必要

・学校をもっと深く

関わっていく

(pick upする)

- ・子供は地域で育つ。(地域は変化する)
- ・夜の居場所も
小へ大人まで
みんな必要です
- ・発達障害の子達も
集中的に支援が必要

小学校区の通える範囲で
もっと居場所を増やしては。

子供が居場所を運営
して欲しい。子供視点で
解決策が見えてくるかも
しれない。
子供・居場所・先に(突破の)
といふ向こう側・家族支援
が必要なのではないか。

- ・スマホで情報をキッズで見る場所
- ・不登校の子供が安心して来れる場所
(安心・安全) → 気持ちよくなる
- ・自主参加
- ・地域づくり
貧困とそうではない地域の差が
よく感じられる
不良の先へて引き連られて行く

・貧困とは?

経済的/精神的貧困あるのでは?
しこの支援はどうする?

なぜ学校の話が出てない?
いかに学校に登校者の
人を巻き込んでいくかという
視点が大事。

- ・ガングラーに招待
して
- ・ホケストウをせよ!